

所属： スポーツ科学部 競技スポーツ学科
 資格： 教授
 氏名： 山崎 真紀子

<p>研究課題名</p>	<p>1920年代生まれの日本近現代文学における女性作家研究とHaruki Murakami研究</p>
<p>研究目的及び 研究概要</p>	<p>I. 1920年代生まれの日本近現代文学における女性作家研究 【研究目的】 戦中に青年期を迎え兵役体験を経た後に作品を発表した作家群を文学史上「第三の新人」と呼んでいるが、多感な少女期に学徒動員など戦中体験を迎え、戦後に作品を発表した女性作家群の名称は文学史上まだない。この欠けている文学史の構築を図ることが目的である。 【研究概要】 アイデンティティの確立のために異国へと向かった1929年生まれ須賀敦子と高橋たか子に焦点を絞り、イタリアやフランスに身を置きカトリックを通じて女性が主体的に言語活動をどのように構築すべきかを模索した軌跡を調べる。</p> <p>II. Haruki Murakami研究 【研究目的】 世界から見た村上春樹作品を見ていくことを目的とする。 【研究概要】 今年度は村上自身が初めて父の中国戦線経験を雑誌に発表し、これまで沈黙していた村上自身の家族関係が見えてきた年だった。この視点からのアプローチを始め、家族関連の現地調査を行い、「日本」を「中国」から見た村上春樹研究を行う。</p>
<p>研究実績の概要</p>	<p>I. 1920年代生まれの日本近現代文学における女性作家研究 須賀敦子に関してはイタリア文化会館の図書館に定期的に通い、館が所蔵している須賀の資料を読み込んでいる途上にある。また、彼女がイタリア語に翻訳した日本近代文学選を通して、イタリア語と日本語の境目にある言語解釈の須賀の特色をイタリア語の指導者に助言を仰ぎながら須賀の文体を探っている最中である。この研究は長くかかるので、イタリア文化会館と日伊協会に定期的に通い、指導も仰ぎながら長期的に進めていく。 高橋たか子に関してはカトリック入信前後の言説を彼女の遺した言説から追い、彼女の使用する特殊なタームの、その内容の考察を進めている。なぜ彼女は40歳を越えてカトリックに入信したのか、教会音楽になぜそこまで惹かれたのか、彼女のいうところの「魂」「霊的」という言葉は、いったいこの日本の地でどのように変換できる言葉なのかなどなど、日本の土壌ではなかなか理解できない高橋の言説分析を行っている途上にある。今年度は、修道院および宗教画調査と彼女の足跡を追うベルギー調査を行った。しかし、実際に赴いてみたが、彼女の詳細な足取りがまだつかめずにいる。この研究は途上であり、まだ公表には至っていない。</p> <p>II. Haruki Murakami研究 村上春樹の父親は日中戦時下の中国戦線で惨い経験をし、帰国後は僧侶として毎日祈りをささげていたという内容は、すでに2007年に海外の文学授賞式で公表されたことだったが、それから12年後の2019年6月号の雑誌で改めてその詳細が語られた。このことを受けて、村上の父親の実家である京都の寺院を訪れ、墓所なども確認し、書かれたこととの事実関係を調査した。また、日中戦争が作品の背景となっている作品分析の参考のために、上海に取材に赴いた。その成果は、「村上春樹が描く上海—『トニー滝谷』における父子の傷」（『上海の戦後 人びとの模索・越境・記憶』（勉誠出版、2019年7月）に公刊した。 来年度は村上春樹がアメリカの大学院で教鞭を執っていた時に、そのアメリカの図書館で閲覧したと自らが述べているノモンハン関連図書や日中戦争関連の歴史書や日本近代文学の書物などの実際の見聞調査に赴く予定である。</p>